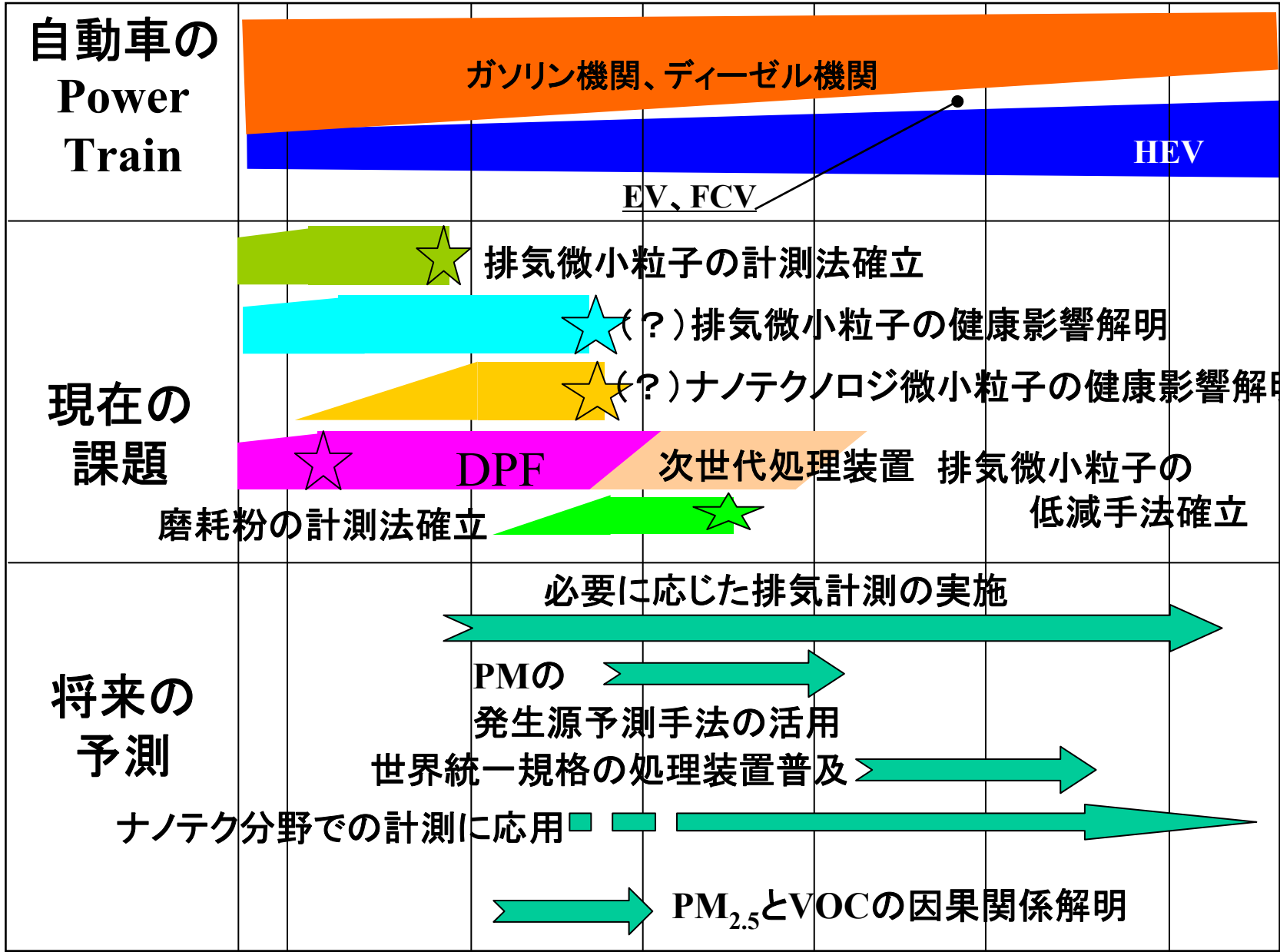


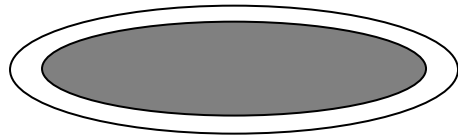
2005 2010 2015 2020 2025 2030



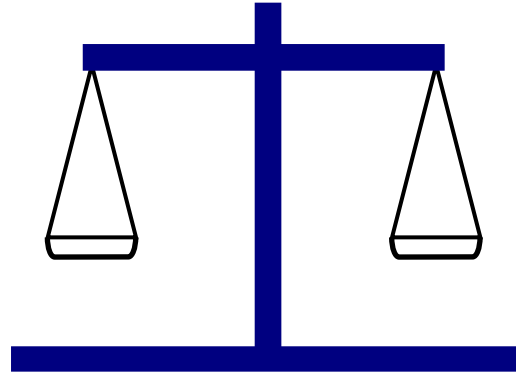
2011. 10. 5修正

図1 . 今後の展開

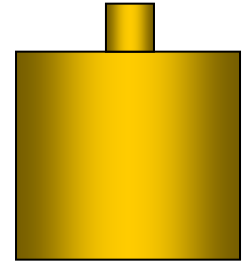
重量法;



フィルター

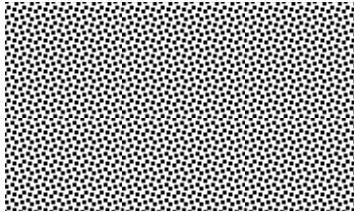


グラム原器



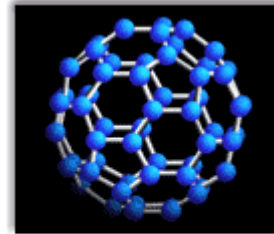
天秤を介して絶対値の保証;トレーサビリティ

粒子数;



どんな方法で?

何と?



C₆₀

フラーレンの活用の可能性

図2 . 基準微粒子の必要性

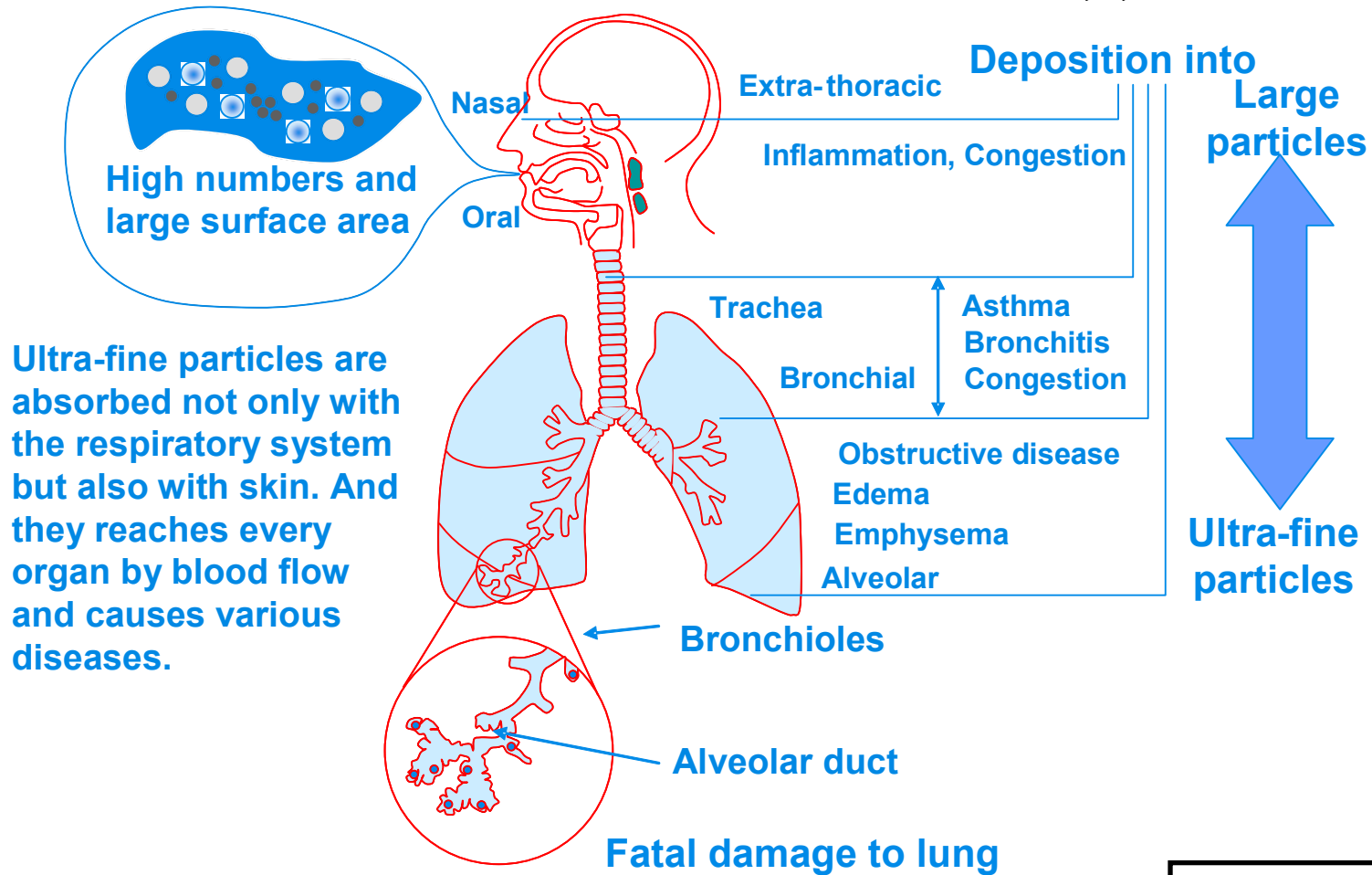


図3. 超微小粒子の人体影響の疑い

注: 原図では
ありません

図3. 超微小粒子の人体影響の疑い

DPFはナノ粒子も超微小粒子も減少可能

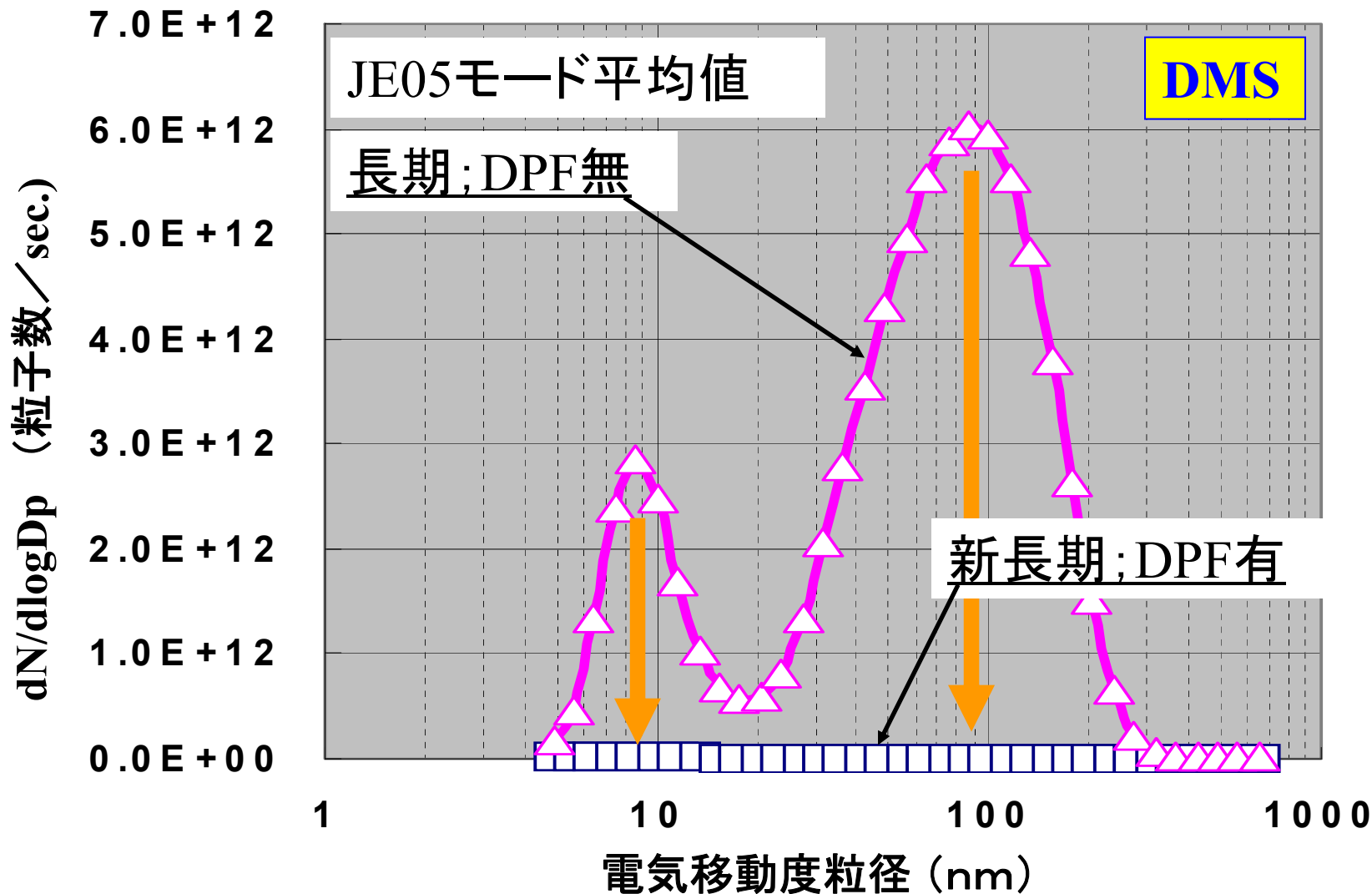
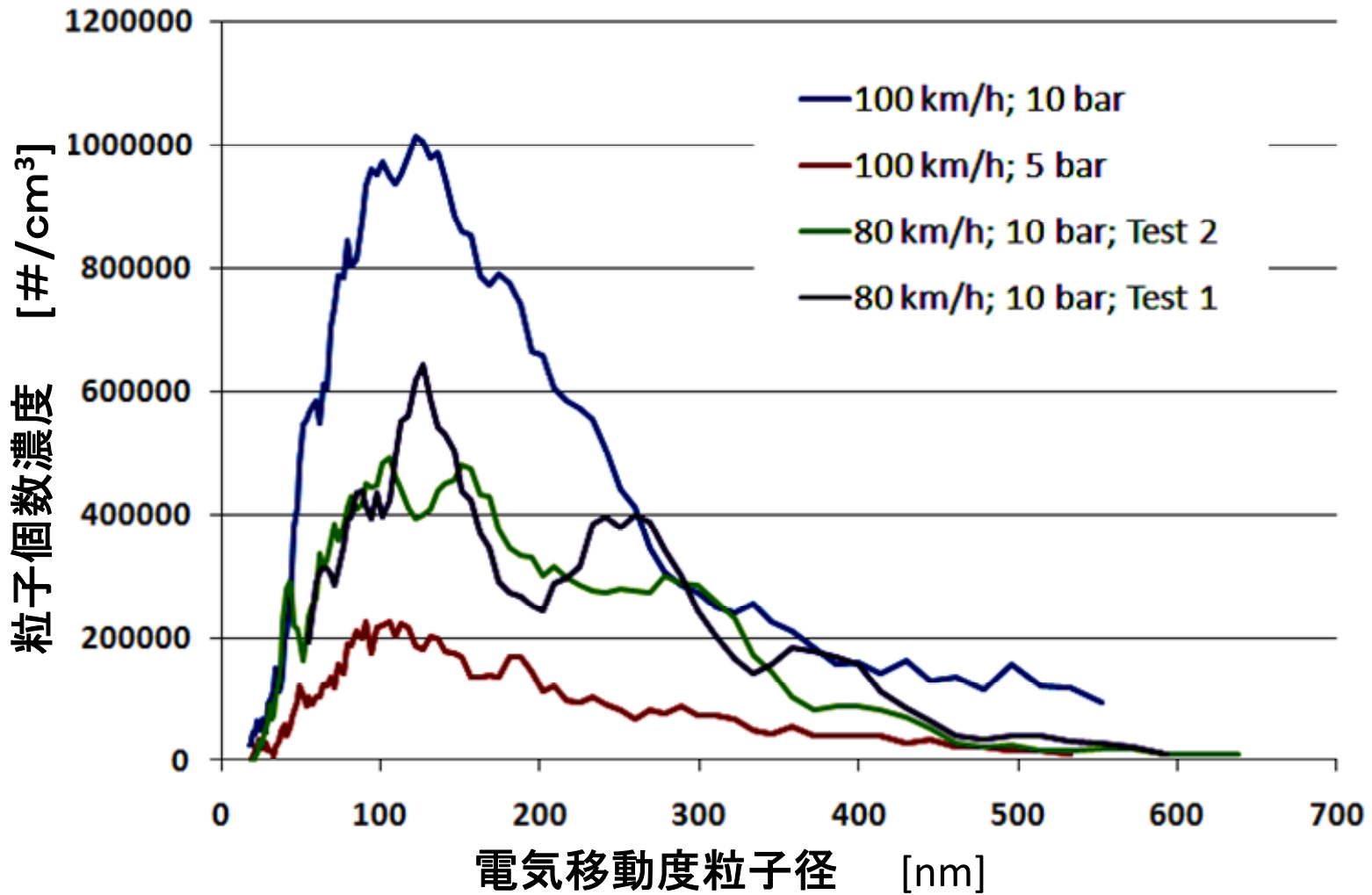


図4 . 新長期適合Cata-DPF の効果



出典: K.Augsburg et al. SAE Brake Colloquium, 2011

注: 原図では
ありません

図5. 車速やブレーキパッドの圧力と発生する摩耗粉粒子の関係

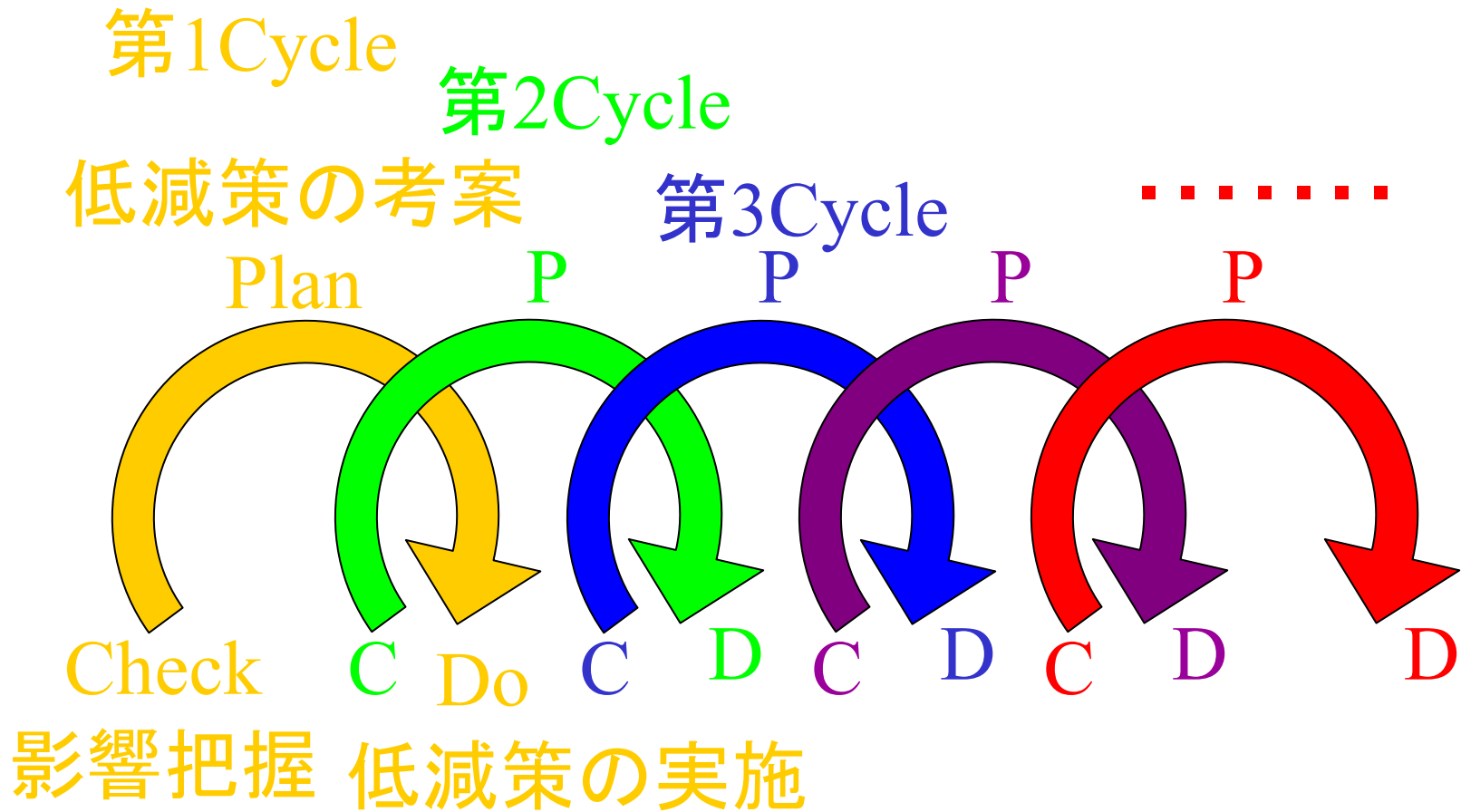


図6. PDC-Cycleの継続

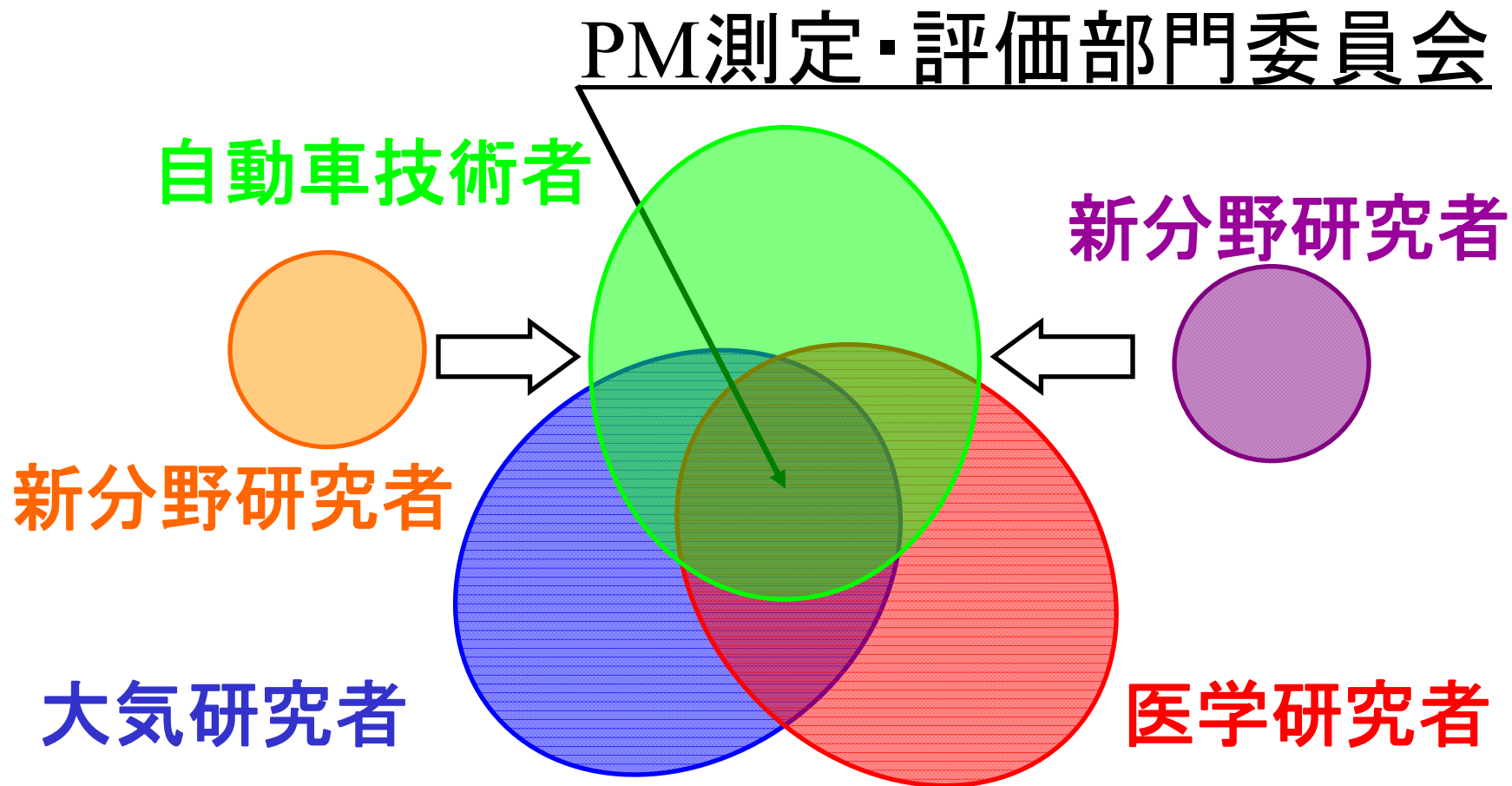


図7. PM測定・評価部門委員会の位置付け